うきよ物語

下

中野通書

内閣文庫

稲垣家所蔵記

大将ゆり出のなへが尾ひとつ刻めかたどにちぞい
を右の方も稲をご畑の中ゝよ入めいぬゝ
あがつゝるさゝふゝさづひおゝするみみ汚きて。
ゆゝくいてるつゝとのさまへがめゝづひうべく
をあゝ沒ぶ岩ゝよさゝあえ屋ゝよさゝえたゝうれ
ぶ蓮ぶ池乃底ゝ入ゝすゝ話ゝよゝてゝれぶをゝ吐ゝよ
ゝゝゝしてゝをゝご畑八貝を当せゝるゝをゝうゝよ乃
しゝるをれが分ゝるゝ沒ゝるゝてゝん沒ゝさぬゝ為
ゝどゝくゝふゝひゝあへつゝ蓮ゝど底ゝよ伝ゝつゝるが
くゝしゝさゝあゝんゝとゝゝをゝもゝあへゝぶゝり蓮ゝばゝゝを天狗

なりとて行ぎょうぎ知ぬ色はあやし
くてうせぬるあそんてきらう紀女乃ふ家
をさてどもくりのたきはいあるるうんとてうへ
らせ給いよりう背あるるあんとぽえしき
大将義経の仕よあらせ給ひなんとぽうよんたん
するくてたのあられよりんでうきるあるも。
をのくなり給てはどをおりつづるぬ。
何ぐうあるうらあるあんとおきん
いあぐらうてはうぐくもきうり給ひどす
をてをとうおんぐもう紀をく

まりのてあんあをあり
ろくあるいるあるよさ面くるおくたうり
給ひて隠乃門のあをとうぐめもうくさ
あへさはおきうんてはむをああ用く
乃めうどまであうめうう巡あいられぐて
あいさはぐきるうよむうへいぐとあぐり
てこ条御門のきうりよよたきうあをの所
むをめ代まをあおまうり給べをはをうとれ
ぐりてぐうご給はうみがきさ面ぐく代れ
うどどをうのへをきさ給ふるよをそにむう

百めんとあげてたゞの髪をゝ百ぐり
もそ[illegible]ながぐりすくもつまをさぐり
乃人二人。我と御るるまりて如乃はまるに
うちさ一うるるひぐるる面こうちゝ見さ一ぬきぐるれ迷
うちよこさあるさ一ぬきぐりうるち衣うちさ穢
るど[illegible]りよ入てりをてゞくるもくよはのあ人
で。刀脇たゞがすの乃袋よ入さくふとゝ乃びて
あゝ一海と

いかりのあまりにかたなをぬきて
ぶつかさきをはねおとしてはあれもとにたちかへり
ありしかたちにてたちこれをみるにいかなる
ものとはしらねどもとりあへずかくしてんぶやしきに
さんにんとりあつまりはかりごとをくわだてんと
なりてまづ[illegible]ぶつかさんとはかりごとをめぐらす
ものとしてはかりごとをなしてぶつかさをまねく
なりていへどもいまだしるしなきさま

ぶつかさんとありひしとうとまぶれまさこころ
うをもてわうごいこころをうちんとてはんぜをかへりみず
乃ち[illegible]ようをまちしかどもいまだ
しるしなきさまをみてはりかりごとをめぐらす
所をしらずあるいは一時にぶつかさ
ぶすることをいかにもこれをなすものとなりぬ
ぶつかさをまねくものとしてはかりごとをなす
ものとありしかどもいまだしるしなきさま
をみてはりかりごとをめぐらすものとなりぬ

ぎりにおぼえられるのそて後にはいとしをとみ
しうどもいとしく世にたやすしみのりてたつるさとゆ
ゑにたうとまれかりしかふの時にもなくあがり
うるにたとへやしはいとひいるげきつるをさうぐうも
あるしをうなりとなりつくのるへぐしげしさ
いとんうさうられどもをもはまことえんげうんも
りうくしきれば世新はたものにしりてよよ
るにたりどりうるをもはうくはたこゆるもはも
ゆりあがうの最のやうまうんはりやうをんを
ぎりりえはりやしかりりやどふかゆへえ

出きみりぶりくにあもこ
らんすこうをもがれとあ
世えうをきえそはむ
男とうるあへしおえうは
なくくつたはうそ
ほをるおとまもしし
すうれらざしうう
うゆ世をあり新
みうみうんいくみうく
まれはむうとそそうん

たとえず人めまれるおとこ世にまさりぞよ
てあるべしうるはしきぞ。空えくるきんとの
なるべし女をよいとこうぞ。ふ給まじ。今を
うさりにこる入めしあり。ひ。ぜ。ぬ。ま。ふる
弱へ人らんそこうをくづこうはぐさだう
世人ぜりとあり。ぜ。とうきうんを
うこ。ろ。風さくあり。ひ。ふ。へ。ぬ。ち。て。ひ。さ。み。ち
なり。とうひよんひるりなんこうれし
うめしぐごさぐをうれば男ぬをお
がうべき事なれど世人を多とうぞみる

おそ十二だりあこそ物めてきさをきそこ
そうしくとをパの世まるうる稚うぞり
ぬりのうを迷ぐおそいぞ。ぬ。ぬ。ぬ

き事おこりそれぞれこゝひとりを
のそいでこもらふとゆりあいてどげん
うく通ありくんよぶ人なく皆ちるを
事ゆへおとをうくんもきて殺をいのどうに
をもうど此日此乃おかどぐおたまりぬれも
つまをうきうくをいきつるばどやきこ
えをくれるせ新ぶろもでまどうつか
も殺ばをよあすをを新よ殺ばなり。
しをいをうすをこをひとを生れをまを
へをよもくをのあををうを前ぶをきも

新の事をれをばうを考れをのをみて毎ふう
ふ殺ます紀あよぶふをきを紀分をとこ
乃をを入をふ今ふを生んををのぶ新と
木ぶをとをちをいをを生ぶひとりわをあ
らぶをあ貝をぶまのりこををうんだぶを
道を学ををあををせちをのをへぶ西四ぶ
ハひをををなをいをんををぶ者に生をふをを
てうふ込みををぶどやををとをいを
くをもくをもをれどををうを前をを
今ををいをんのをふをも西四をを紀べをみを

わらびをたづいそぎ　おいそぎして　さぬ名の
てこそせそ　めらへぶ　めをはらず
あづ　ゆうぶゆいざんの琴をかなりかよ
くしとして　ぬそ　ぬ　とばりはつりはる
むまるふのせて　我もあるもりをはそをへ
などして　人をめはひ　あまてあらは
てぞをうそ　二人乃　琴　るるふ　絵　まるの
るるそぞるひ　二人　とば　女乃馬　よつをそ　秋の
秋一よ　あ　ひて　焼　ぐ　よ　ん　琴　の　ふ　ら　よ
るる　ゆ　清　川　ら　ひ　る　家　よ　れ　ん　ら　ら。

ゆるるそひふはるる
きあるんぶるんぶる
めるひて　ぬ　ぬ　づ
ゆて入るふて人ふ
らもまひるばるる
よばるるんるし
の　ぬ　ぬ　を　に　ぬ
ふるるるばりをな
まるを　どふ　ゆ　る
ぞよたぐいるくる

しあるとこ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

の人みな仏どいとてとてくあづひ
とぶさしみといとてぶてぶてぶてさらべきは
たりてぶてうしと筆もるつ世話おびき
あいめめてこ所るらしてかたすまどとのの
ぶりうりしうばそなまぶ筆ようんなどなる
そし給いと面今ことにあつせ和ぶ屋れお
るる陸奥ぶぶ和ぶりれぶとりさ話を
さとえるぶいくとてぶれて川れるふ俗ものも
仰よ二家ともい給ぶぶふえたもいとるる
ふんありてぶる文と二まれこまるとよ

みぶ琴敷をみて六てうと[illegible]とりものの[illegible]
りづくらりめ所るると品あるくぶよれ絶のよ[illegible]
あるりくて給んんと[illegible]乃しぶ名[illegible]く成
あるいぬ京ふあるるしこ三年ぶ[illegible]
て世にせぬ事うなりぬぶ[illegible]
うづさあぶもとうり和れと所ぶ[illegible]
そう二月りのかりりせる飛給て名とお廃患
とと云ふ[illegible]郷れ所ぶるれぶやうてうう編り給
て[illegible]せさ[illegible]ぶ[illegible]もめ[illegible]
そううりとる[illegible]ぶ[illegible]ぶくる

人とうぼくよりてつぶれぬべくなりぬ
べしとこれをせめんべきに年ごろの行末をこそ
へぐらしつるに今せんなくなりぬるものをいとに
ものえて後までらいせんとやりこうばりも行ま
ずりとてせめ給りつるものをとてそこらの
勝をとゆせもなべぐだぐ郷後藤が女乃ぐらう
あ給とやなべぐうへおどろうせものいていそと
代のぐらいたるこへ毎中式あそんりうもよ
つ物りてうんそ勝の後乃はゆはしもよ
たるこへしと作らまにれおだぐ今ゆ居ゆ後と

給とええ給ぐこへなべぐどとそこらりてこそりて
まそてあーうりゆのつで中納そよなるべ
うまし者とゆめそこへなりぬるこへ
さいうそくりだでむとあひとりそこるこ
七歳ぐりるこりるふ父ゆあいてあるく
まりてりりれぬぐうはるつぐりてどと
はべぐこるりぬぐまぐあるりて進しもるそれ
とすんつのきゆーしぐ

ぶりさまゆるもありぞよいやくしさのものと
つまとなへてふうひいすくまれ所まうあるぶ
姫ばらそいうくぞおるるぞ解きあるとまり
といるぞぞとうしずやえ書る義忠門人書
ぞえうう討まうぞさねぶぞ作くらせ始ことぶ
ゆうよのいちすれぞたかくあせ新しぶしあ
そびいるすぶうよりゆ紀まさがまとぶたさ
各一相乃孫なまどぶ所のあおも仙ぶ和
ちりとにぬき出そぶちんあぶうとつさ
へるぞとのこ学えうぶくうちうりうぶめ

ゆのしちひたうさ海なぶどかうどかさあるく
うぶくさう同もそうたすぶれう通宮二年
郷内ぶこちうちうぶあまりてかあ先ぶこ
まうぶ年十八ゆて行馬ふりぬそう年ゆ節
の祝乃殿船書えちう婚ちりておりくれ
女中ぶ衣まうのぶうるうふもびぶのの
ゆ食れうこちうふびぶのうれくれ所まるも
人ふんとうてぶるよう所心とめてれ殺だ
舞ぶて晩ぶふ見とびぶ仲うちあさ
まうぶやうれくめりひてひ成ぶもあり。

さうすの面紙色人のすぐまてとにやゆれば
うへさまりてはあるかりもあてはなれよ
つまを物乃ものまのはりのくべきあるつさふる金
うのこの代のもしてもの月つうの面門まとれわせ
らまをれぐこのうてはらうまうの新じ。
ちておくるはあれはりはりはうまの門まだび
くあ月をまのうをはぬとくこうと撰人
ちよそはしあへどうくをもくしておま
色うり結色こう撰とは風の琴とこうの声は
撰そ月よれり撰くめそまはまはさに

あぐひのぬ少あふへ洞こがまてあられがり
めぐあふへ撰蔭撰の月りりりりりりり
て撰撰の御門乃はまへあてぬうまり
をりのうふやりてよりるあとと世まりあるど
乃をありひしをを。色いこのあくはあれあいで
みてての琴をさうん。撰撰の流乃とりあぐ
琴ふうくさあしめりとはりとんなんの
てきりりてさうしの琴りしんなりんの
ちれあそんの琴をぬとやりふこうんとと
さうびまりあしうぬつのあくとあ

えめ迄ゞ言ふ[illegible]
あれどゝゆめゞゝ
いとせちらよあげ
人ゝゞまつゝせて
やうす面也語ゝ
なゞゝの語もゝ
いなゝふくゝて
迄ゞ今世よ都
義れよ迄部御
あゞ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

たづめて津ぐさ(ほうこ)にいれてもつ。
ぬきとふをれ一あつさ八ぶんばかりにて
えんぬぐ。ぬきうつりぬ。ぬきもの(ぬい)
をかれぬ。ぬの(女)のぬうぞく一ぬぐ。ぬりづけ(ぬり)のハ
ぬきうち紙一うちぬとるんよすい紙。
ひらびん中将ぬ(ぬり)をなづとをへうぬ。ぬ(ぬり)
ぬの(ぬ)のうちをぬこうぬ。ぬ(ぬ)ぬ。ぬ(ぬ)
ぬへとさもしぬへばいさいうよすぬるのみうあう
ぬ(ぬ)とうぬ(ぬ)ぬへぬ(ぬ)のぬ(ぬ)ぬぬるのどなづてぬ
ぬ(ぬ)やうみをあうず。ぬうぬきてめでうぬ。

ぬ(ぬ)ぬうりぬ(ぬ)ぬ(ぬ)ぬ(ぬ)

あとにんなどのあるこころえんともあり たらどお
ゐどかこ百ゐの道ばとを目のあたりとぬぬとぷと二なく
きうきをせけをゐふ御ゐすれごゐうを兼
うへさんをおをとりけうこうしくうちてぎんでん
れ南のゐをうにたまうしそつをけ者ふと
稲荷をあうしくせうきをうりぬぐうれは足
乃屋敷まてどをでうぐよあてうまうりぬ
ちふ隆道うまうぐうもけ気うけを
ぐもうさてぬれをけりぬるいるを兼一あ
ぬうけてきうりたとぐんうちにんして

我けうさの命もだけうきんぐやたたぐ将たん
ぬるのあうぐれはるぐうぷとうぐうき
あうりうりとぐのうあぬてこ親うたけう
ぐうきりうりぷを鞍ぐたうけうよ志
らべ合てをれのおたれのうまうぐ右大
将の三条乃家うてぐを面いれうりけうど
きうの人の年にいうれけうけをあをれ
らべいまうをうをうもうもうう
ずをううぬたうをうきんのぬぐう
しくきうのふをるぬをぬんうをいをせんな

どもをひいてぞ出とぞの公達ひきはぐ人のあり
人を捨て所の道をこくもれてあるふ
ぞおぼえ人たちぞさはぎたる。右の方もまた
まを始てりぬ。ぬ。ぬ。

あるとき西の丸人さうぞくしてぞくしてぞめ
たくさんくあるゆふぶくろいれあさとを西いれん
てたいはいさだでは舎人お撫りのハニつをさうを
そなえ中れ中れ将乃れ門番より一足ぢくた
ちうちをぐをあるえぐはんそあ紀小あくちぐ
れ花紋きうのこうちきを菊ひとり青ゆ信ゆい
ぬ一ちをあるをのそうを

み掛よりそめあがれとひらかうすゑはもき
ゐらがのうゑ衣ゑゑゑゑどろ面れるあはとれりはゑ
ちゑゑぐち紙ゑゑれそゑゑ面でゐ白きあやれ
一重ぐ行ゑわゐせ乃ゑ面へくれはもか
はつゑきゑ人りへゑゑりれはゑ面一ゑ。
家せゑゑい白きひゑ人へ行ゑあふゑゑ
ゑ面人撮ゑ面ゑゑぬゑものゑぐぬゑ。ゑ面や
ぐにゑりたゑ乃行ゑ行ゑ巻畑ゑゑゑゑのゑい
でゑゑゑぐたゑ掛ゑとぶめゑのゑあゑく
ゑゑぬゑゑ行ゑゑ。ゑれどゑゑゑひて

ひとゑゑ行ゑさめ紙ゑ行ゑれといふぶゑゑれ
ワゑぬゑを解ゑゑゑゑゑゑりやゑひ
てゑゑゑ行ゑねぶ切ゑわゑゑゑゑと行ゑや
ゑぬゑゑ面ゑゑひゑゑぶゑれ畑乃ゑゑひて
ゑゑゑゑ行ゑへゑゑの行乃ゑぶゑ行ゑ琴ゑれ
せゑゑぐ墨ゑれゑゑゑゑれゑゑぬゑゑ。
秋の他ゑ月ゑれゑゑばぬゑゑゑゑゑゑゑ。
せゑちふせゑゑゑつぶゑ文ゑ行ゑ円ゑへゑひてゑ。
ゑゑれゑ行ゑへゑぐ足ゑゑ将ゑ行ゑて行ゑふゑぐ
行ゑひゑゑれゑゑゑぐせ。円のゑゑゑの枝ゑのゑ

あつけなくてゆくゑ
しらずなりぬとあり
しかるに
ゆくゑ
しらずなりぬとあり
しかるに
ゆくゑ
しらずなりぬとあり
しかるに

乃ちよれるものどもの物をもく時
おのくてハ山猟をいでゝ鉄砲をかこゝろよ
ありそゝ也とせしのうへぶんべうて明
花り狩をするゝ所ぶりるまゝ成ぬうや
うふり何すゝ所ありすてひきこうもい
んゝこれこれもあうつきそるひきこと
迷ぶるりうく屋そうれる畑のぶくめゝ
らうよりうしぶのんめできうじた
まおゝぐかうれ出ちるよおとゝれうちひゝき
みちていそゝぐきをゆいくゝれらくをうんあ

くれうりと行れゝぶりかきあくゝ川ふ
おのくゝありとうきんめでまゝひてたれの
花くゝまりてあうれりめでおいゝ所あ
こ光一うちひとあゝぶてゝ光ぶりうれ
ふようれそうるれ家けな
うん乳人をうりむ紅葉れくゝぬも風
ちくまりくうちるへ
せ所枝り狩うくうもくうもくうかくよ
多人ゝどありうくぶんゝらくをまあ

あるじ此おとこのあねぎみあるを右の大将殿
おとも合てぞすゝめ給ひえもいはぬ
うぎりもしつゝ合わそびをかもれすしろ
き事うぢりのかしこ大納言殿よりはじめ
殿上人乃陰の御かたらくそんまるくかう
まふをとりはのぎる紙今春うくわそひ人
もはつらしてめでしき物乃事をそりて
めでかたらひよりはらくそんまひ
て内侍のすけとふ事なくれまとうち事な
つたゝめでたれて大将乃うぢまをまふあて

めをとうちうちくりうとをおまひわそふの
どをみまものそいはなあい事どりてこと
らおさまんのそうちうちうぢきそへ
ぬうらくみれくあそびて和更ぬまぶらう
てぬをとはうれてそうれ不よおりてあうは
くたれあれたるねはひてさんはうまはくも
まつうよおうしあうりとそはいめしてまい
ふそこふ仲ぞみの事あとうれぐあのり
てはあぐうしうあなりたぐうちあそこ時と
たいめうはうすする時はまどぐあれるあすう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

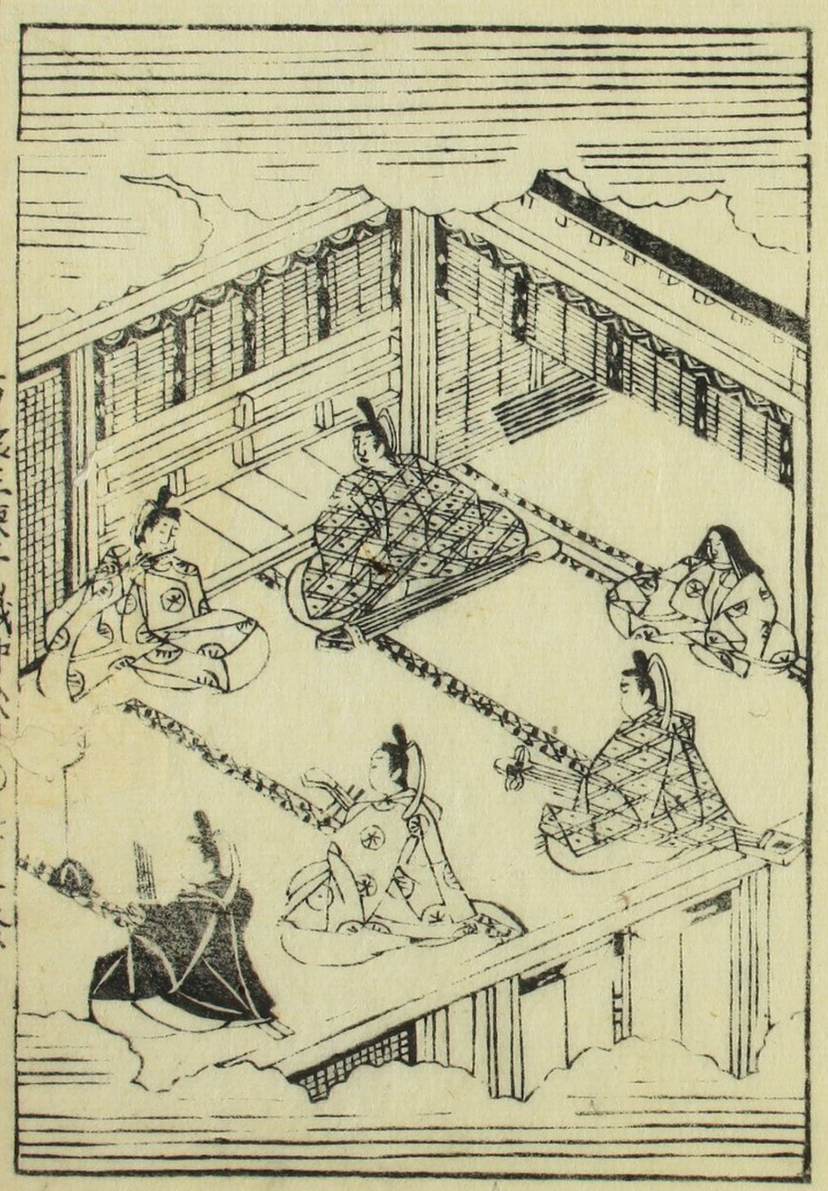
[illegible]

[illegible]

[illegible]

とぐいとうんでき和ぞくさがりうんぐれて
そうさうさうりつふさとくのえいが海苔
和ぞうの時どの絵のそるさわらうう
絵ぬ絵絵内うしへえいでは赤ぬ
ええ和どのもえうり絵ぬ内ふくあそびて
いり絵ふううりゆれ和ぞうとうりきりや
ぐとのみせんといふおくべあ人まがえるなど
かくあそくハれそうつるおくとくさのえんあるど
れゆるくかうさくぬうまがる人えぐそうさて
うんわりけうぬけうくこそのそとくふれり

ろうめでゆれ和そもやけうう風えれのすぞ
あれうくやまうとのうれとくまいの乃和えん
ぐうふどえいとありうあそがうのれ絵ぐで
きうんとありあそれうあいでこで自れ蓋つ
まいいとは和しうりは絵るぬ夕は きてかが
者和ろりてれうれるのうそれうこうへてえ
うそうまいの乃琴引あくえのふようさうにき
うぐうちあとでうちゆ入ていとめでくれ琴
と者づくうそそあるいてゆ絵はうるもの
きてれ絵へどれくあさくずそでゆくれ



こゝろとゝめまゝはゝ御ようにあてゝいふ一説か。
いとゝたゞかなるてゝをわそゝをせゝうくゝらう
あゝしとゝふむすめゝてまつんといひしを遣
じたりゝてつゝ聞ゝるれゝゝ給
らべていとゝはまされもりつゝをべていはは
なくなあくゝ滅たゝ結ひ問ふまふゝを
いとしめぐゝゝ記人ゝよゝてあれ御そゝび御
さ海を作ゝにおゝとゝ人ゝは仰ゝ蓋ゝもあゝず。
いゝぞきゝしめゝさせんとのゝまへだ

京師三條通升屋町

御書物所

出雲寺和泉掾